



公益財団法人仁科記念財団
第4回 理事会 議事録

1. 日時 平成24年11月2日(月曜日) 17時30分～19時30分

2. 場所 東京都文京区本駒込二丁目28番45号
社団法人日本アイソトープ協会 第3会議室

3. 出席 総数9名(理事現在数9名)

出席理事:

秋光 純 江澤 洋 小林 誠 鈴木増雄 田畑米穂
仁科雄一郎 西村 純 矢野安重 山田作衛

以上9名

出席監事:

荒船次郎 池田長生

以上2名

出席選考委員:

藤川和男(委員長)

以上1名

4. 議事の経過と結果

定刻、小林理事長が議長となり、出席理事数が定款第37条3項に定める定足数6名に達していることを確認の上、理事会開会を宣言した。

(1) 議長報告

小林理事長より、本年度上半期に開催された運営会議・運営諮問委員会の会議次第および議事録に基づいて、理事長および常務理事の業務執行状況報告があった。また12月6日(木)15:00～17:00、東大小柴ホールにて開催される第58回定例仁科記念講演会「宇宙線発見100周年」への参加の呼びかけがあった。

(2) 議案審議

第1号議案:平成24年度仁科記念賞決定の件

議事に先立って藤川仁科記念賞選考委員長より「平成24年度は13件の応募があり、これらについて慎重に審議した結果、①井上邦雄氏(46歳)東北大学ニュートリノ科学研究センター教授:地球内部起源反ニュートリノの検出 ②細野秀雄(58歳)東京工業大学フロンティア研究機構教授:鉄系超伝導体の発見 ③初田哲男(53歳)理化学研究所仁科加速器研究センター主任研究員・青木慎也(53歳)筑波大学数理物質科学研究科教授・石井理修(44歳)同左

特任准教授：格子量子色力学に基づく核力の導出、の3件を受賞者としたい」旨報告があり、審議の結果、全出席理事異議なく、本財団仁科記念賞規程第6条第2項に従い、選考委員会提案通り平成24度仁科記念賞受賞者を決定した。

第2号議案：Nishina Asia Award 規程制定の件

小林理事長より「仁科記念財団は1992年～2009年の間、本財団の主たる事業として、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において将来性豊かなアジアの若手研究者を国内の研究機関に受け入れ、その研究活動を支援してきた。しかしながら昨今、このような海外若手研究者の招聘助成事業は国内に多くみられるようになり、本財団の事業としての特色が薄れてきている。そこで本財団では、数年前からアジアの若手研究者を奮励鼓舞する特色ある新たな支援事業を検討し、このたびNishina Asia Awardを創設する運びとなった。Nishina Asia Awardは、アジア地域で極めて優秀な成果を収めた日本以外のアジア国籍の若手研究者を毎年1名選考して、賞状と賞牌および賞金400千円を仁科記念賞授賞式場で授与し、さらに授賞式の前後約2週間、わが国研究者との研究交流を助成するというもので、前者は定款第4条第1項の仁科記念賞など褒賞の授与、後者は同条第5項の優秀な人材の外国からの受け入れの助成に基づいている」旨、Nishina Asia Award創設の趣旨説明があった後、理事長提案のNishina Asia Award規程案について審議し、全出席理事異議なく承認された。

以上で議事を終了し、本理事会の議事録署名人は定款第40条に則り議長のほか荒船監事および池田監事とすることとした後、議長 本理事会の終了を宣し閉会した。

以上の議事録が正確なものであることを証するため、議事録署名人、下記に署名捺印する。

平成24年11月2日
公益財団法人仁科記念財団 第4回 理事会

議 長

小林 誠
小林 誠

署 名 人

荒船石次郎
荒 船 次 郎

署 名 人

池田 長生
池 田 長 生